



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2013

1月25日号

133
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (659)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

新年のご挨拶



会長 齋藤 康雄

年頭に当たり新年のご挨拶を申し上げます。

希望に満ちた新たな年を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年は鈴木前会長の残任期間を引き継いだ後会務を遂行してまいりましたが、皆様のご協力のお陰で何とか年を越すことができました。ご協力に感謝申し上げます。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災から、間もなく2年が経とうとしています。福島県は、震災の被害に加えて遅々として進まない原発事故による放射性物質の汚染除去や復興の遅れなどで、未だ32万人以上が住み慣れた家を離れ、1万6千人が県外に避難居住しているというのが現状で、放射線に対する不安や疑問を持っている人も少なくありません。

そのような中で、(社)福島県放射線技師会はなにができるのか。我々もその汚染された環境の中で共に生活しています。それぞれの会員が置かれている状況の中で県民の皆さんと苦難を共有し、できることに取り組むことではないでしょうか。それは、専門である放射線についての啓発であり、被ばくのリスキ活動であると思いますが、会員が所属する職場も復興の真っ直中にあり、会としての取り組みも限られたものにならざるを得ません。そのような状況下で、我々が日常業務の中で患者さんからの質問や相談を受けることも少なくありません。適切な対応が不安や疑問の解消に結びつき、感謝されたという事例も多く聞きます。そのような観点からすれば、必ずしも集会を持って住民の皆さんに講話をすることはばかりが活動ではないと思っています。適切なスキルを身につけ、それぞれの会員が自分の置かれている立場の中で積極的に取り組んでいただければ、会としての目的も果たせるものと考えます。今後も皆様の活動に期待いたします。

昨年末に政権が民主党から自民党に変わり、希望と不安の中での年の明けとなりましたが、我々の業務拡大の法的な位置づけである医政局長通達も、2月の通常国会での成立を持って出されるはずでありましたが、衆議院の解散により仕切り直しになってしまいました。昨年からJARTが開催している静脈注射（針刺しを除く）の講習会を、来年度に福島県で2回開催することになりました。開催期日は今のところ未定ですが、多くの会員の参加を希望します。国会成立を見越して行われている講習会の苦労の実が結ぶ日が早く来るよう、早急な条例の改正が望まれます。

今年度の重要課題として取り組んできました公益社団法人への移行は、ご存じのように昨年一旦申請取り下げという事態になりましたが、今年度中の認定取得を目指し、昨年末から新たに再申請の書類作成に向けて福島県の担当者を訪問し、その後メールのやり取りを重ねながら取り組んでいるところです。

今年は、11月に第3回東北放射線医療技術学術大会が福島県で開催されます。多くの会員の参加を希望いたします。前途多難な年の明けとなりましたが、役員一同で力を合わせ、会員のみなさまの協力を得ながら、公益性のある活動と会員のみなさまの資質の向上を図る事業を展開し、県民の皆さんにアピールしていく所存です。

ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

第2回理事会議事録（抄）

日時：24年9月14日(金)14：00～16：30

場所：県立医科大附属病院放射線部カンファランス室

出席者：齋藤康雄会長、遊佐 烈副会長、今野広一副会長（理事）白川義廣、佐藤政春、平井和子、佐藤佳晴、嶋田峻二、古川義一、渡辺和夫、菅野和之、小松一文、新里昌一、堀江常満、（監事）片倉俊彦、（事務局長）伊藤陸郎

欠席者：（理事）佐藤靖芳、渡辺育夫

議長に遊佐烈副会長、議事録作成人に渡辺和夫（県南支部）を選び議事に入る。

議題

1) 平成24年度会務報告及び予定等について

齋藤会長より平成24年4月6日から9月8日までの会務報告一覧が提示され、追加等あればメールにて報告するよう指示あり。

各委員会報告

調査委員会 渡辺委員長

・会員の本会に対する意識調査集計完了、11月の学術大会発表後技師会ホームページ掲載予定。

精度管理委員会

・放射線測定器実態調査集計完了。県学術大会で報告する。

ネットワーク委員会 菅野委員長

・実務担当者として、塙厚生病院石森氏のほかに県立医大病院田代氏を加え2人体制で実務を担当する。

・メールマガジン発行は2月予定。

・情報発信手段として、フェイスブック・ツイッターを利用したいとの提案あり 開設の趣旨にそぐわない内容の書き込みやつぶやき等が多数見られるような状況になった場合は当該サービスの利用を中止し閉鎖することを条件に承認される。

学術委員会 新里委員長

・11月11日(日)開催の県学術大会演題数24、市民公開講座は福島県放射線治療技術研究会が企画、ランチオンセミナー「脳血管のMRA」講師 石森文朗氏。

・今回65歳の方の発表者があり特別奨励賞を設けてはとの提案に対し、学術奨励賞を選定し答申する時に特別賞も含めて理事会に諮って貰うこととした。

・放射線治療技術研究会は財務が苦しいので県学術大会市民公開講演会謝礼を個人でなく研究会へ支払う件提案あり。これに対し内規により会員への講演料は発生しない旨確認。経済的に苦しいのであれば治療研究会開催時参加費をとる事を前提に今年度不足分を収支も含め会長に申請する事と決定。

・来年度の県学術大会と東北医療技術学術大会（福

島開催）の開催方式案の提示があった。これに対し遊佐副会長から県技師会単独では決められないので技術学会東北部会と協議し決定する旨回答あり。

・各研究会受講証明書の場合印省略の提案あり。J A R T が容認するなら会長印省略と決定。（堀江理事が日放技に確認する）

・各研究会への助成金について学術委員会答申提示あり。これに対し齋藤会長よりこの案件は来年度からの予算化に向けてのことなので、時間の都合上次回（11月）の理事会で協議決定することとした。

生涯教育委員会 堀江委員長

・フレッシューズセミナー

10月21日又は28日南東北病院にて開催予定。

・X線CT認定技師指定講習会

11月24、25日 県立医大第2臨床講義室で開催予定。

・医用画像情報管理士から医療画像情報精度管理士への移行

対象者28名 DVD（2時間）視聴後試験 県技師会として年度内開催予定したい。なお同様講習会を9月23日宮城県で開催する。

・静脈注射に関する講習会

今年度は日放技で8地域開催を決定しているので、県単独開催はしない。来年度以降の事業として計画する。

財務委員会 佐藤委員長

・会費未納者報告あり、各支部督促のよろしくとの依頼あり。

・齋藤会長より平成22年度未納者7名に対し11月末迄に最終勤告状を送り12月末時点で未納なら退会扱いとする旨の案提が示され承認された。県技師会としては定款にある除名のような扱いはせず、再入会の道を閉ざさない方針。

広報委員会

・福島放技ニュース第132号を9月10日に発行した。次回発行は11月予定（巻頭言 遊佐副会長）

講習会開催予定

平成24年度福島県マンモグラフィ技術講習会

・平成25年3月2、3日 県立医大にて開催予定、平井理事から開催予算と講習料案の提示あり、協議の結果講習料は25,000円（昼食含む）非会員35,000円（昼食含む）で承認された。

支部報告

・10月21日ピンクリボンイン郡山開催 県南支部4名参加予定

2) 報告その他

齋藤会長より新潟県技師会から義援金20万頂戴した旨報告あり。

平成24年7月21日 J A R T 新任会長会議に齋藤会長出席（別紙資料）

日放技より平成24年度診療放射線技師女性サミットへの出席の派遣要請あり、平井理事出席予定。

J R A T論文査読者推薦(核医学領域)について

- ・星総合病院 続橋さんに推薦基準確認中、資格が確認できれば推薦する。

求人情報提供の扱いについて

- ・宮城県立病院機構より求人依頼があり、ホームページへの掲載が問題にならないか検討した結果、厚生労働省文書で技師会のホームページに掲載する行為は法律に抵触しない事が判明した。

今後は県内で求人があるような場合は積極的に情報を提供していく。

3) 理事会開催案内、会長公印の扱いについて

齋藤会長より、現在郵送している理事会開催案内をメール配信にし、必要に応じてプリントしてもらいたいとの提案あり、提案どおり承認された。

会長公印扱いはJPEGで押印し、その後必ずPDF変換し配信する事で承認された。公印JPEGデータは厳重に管理すること。

齋藤会長の手元にあるスキャナーは1枚ずつ手作業なので、配付資料のPDF化に手間がかかる。資料も多いので連続処理できるものを技師会で購入しては、との意見あり。協議の結果購入を決定した。

4) 第3回理事会開催日について

次回理事会開催を11月16日(金)に決定し閉会となった。

CT画像』と題して秋田県成人病医療センター 加藤守先生、シンポジウムは『心臓CT検査の現状と可能性～より良い心臓CT検査のために～』と題して、財団法人星総合病院 佐久間守雄先生、市立秋田総合病院 工藤和也先生、新潟大学医歯学総合病院 能登義幸先生、仙台厚生病院 斎藤和久先生、秋田大学医学部附属病院 谷口 直人先生の5名が発表された。

特別講演は『心臓CTにおける所見の拾い上げとピットフォール』と題して、順天堂大学医学部附属練馬病院 木暮陽介先生による心臓CTにおける所見の拾い上げの重要性とそれに伴う最低限必要な医学用語や病態についてわかりやすい講演をしていただき、大変有意義な内容となった。会場には200名を超える東北各県から多くの参加者で熱気ある研究会となって。(今野)

『平成24年度放射線技師学術大会』開催される

去る11月11日(日)に平成24年度放射線技師学術大会が、福島県立医科大学講堂で約160名の参加で開催された。

今年の放射線技師学術大会は、『誰でもわかる放射線治療のすべて～基礎から最新技術まで～』と題して、脳神経疾患研究所所属南東北がん陽子線治療センター 加藤貴弘先生による放射線治療についての一般公開講演で学術大会が始まった。

『第4回東北CT技術研究会』開催される

平成24年9月8日(土)コラッセふくしまにおいて、第4回東北CT技術研究会が開催された。

東北CT技術研究会は、本県放射線技師会を含めた東北6県に新潟県を含めた放射線技師会並びに日本放射線技術学会東北支部が後援する研究会であり、本年度から各県巡回開催となり福島県開催となった。



今回は「心臓を撮る」をメインテーマに、基礎講演『心臓CTを始める前に』と題して秋田県成人病医療センター 佐々木文昭先生、『PCI時に要求される心臓



続いて開会式が行われ、新里実行委員長の挨拶、斎藤康雄福島県放射線技師会長の大会長挨拶の後、平成23年度学術奨励賞の授与式が行われ、「TRANCE法における最適撮像条件の検討」JA福島厚生連 坂下厚生病院 城戸 修、「IVR検査におけるスタッフの被ばく低減及び意識改善 第2報」JA福島厚生連 白河厚生総合病院 我妻真一の両氏に贈られた。

続いて学術発表が行われ今年度の演題総数は25題と昨年の震災の年の27題より少ない演題数となった。その内訳は「放射線治療」4題、「MRI」3題、「PET・被ばく管理」5題、「アンケート・他」3題、「PACS・他」3題、「乳腺画像」4題、「CT」3題であったが、会場は熱気ある質疑応答がおこなわれた。

ランチョンセミナーは「脳血管のMRA」と題して、聖麗メモリアル病院 石森文朗先生より頭部のMRA撮像についてわかりやすい内容で講演していただき、大変有意義なランチョンセミナーとなった。(今野)

支部だより

浜通支部

「市民フォーラム・救急医療いわき2012」開催される
9月1日(土)いわき市総合保健福祉センターにおいて「市民フォーラム・救急医療いわき2012」が開催された。
このフォーラムは、いわき市病院協議会・いわき市医師会・いわき市が共催、福島県放射線技師会浜通り支部も後援し、毎年開催されている。



昨年に引き続き「放射線について」をメインテーマに、特別講演には「身近な放射能汚染を知ろう『いわきで暮らしていくため』」と題して、福島工業高等専門学校 一般教科准教授 布施雅彦先生が講演した。放射線に関するいわき市民の関心は依然として高く、多くの市民が来場され、会場はすぐに満席となり、会場に入れない市民のために準備したロビーの第2会場も満席となり参加者は講演に聞き入っていた。この後、いわき市消防本部の協力による心肺蘇生・AEDの実技体験が行われた。(今野)

「第17回いわき地区画像研究会」開催される
平成24年10月12日(金)午後6時15分よりグランパークホテルエクセルいわきにおいて第17回いわき地区画像研究会が開催された。

今回は胃撮影技術がメインテーマであり公益財団法人東京都予防医学協会 佐藤清二先生より「胃がん検診における撮影技術」胃がんX線検診 基準撮影法、枝川内科胃腸科医院 前川進先生より「抽出度と悪性度」追加撮影・画像評価と題してご講演を賜った。

佐藤先生のご講演は1968年に間接撮影装置で最初に始まった6枚法の話からスタートし、現在の基準撮影法までの歴史、また、基準撮影法1、基準撮影法2の詳細な撮影ポイントについての話であった。この中で先生が強調して話されていた「どこを撮っているのか、はっきりさせることが必要」との話は私が胃撮影を始めたころの先輩の話といっしょだと思ひ昔を懐かしく思いながら聞いていた。また、背臥位二重造影第二斜位では透視像の観察が重要であるとの話もまた同じ思いで話を聞いていた。



前川先生のご講演は実際に病変があった場合、どのような病変か、判断できる画像を撮影しているかが問題だとのことであった。具体的には撮影体位ごとにいくつかのチェックポイントを設けそのポイントの良否を判断するという内容であり、撮影された画像によって判断される悪性度も変わってしまうということなので元画像の質がとても重要であると感じた。

当日は中通り地区からの参加者も数名あり盛況の中、研究会を終了した。(鈴木)

編集後記

一年間の苦勞を忘れるために年末に行われる宴会すなわち「忘年会」の時期、昨年12月7日17時18分に三陸沖を震源にしたマグニチュード7.3の地震が発生した。突然大きな揺れを感じ「この揺れはさらに大きな揺れの前兆なのか」、「このまま収まるのか」、その時ふと頭を過ぎる2011年3月11日午後2時46分の東日本大震災の揺れ、心に言い聞かせる「忘れるな福島あの教訓」。(今野)